

科 目 名
建築計画Ⅲ Architectural Planning Ⅲ

2年 前期 2単位 必修

秋 元 一 秀

【科目区分】

学士課程共通の学習効果との対応：1-(1), 1-(2), 2-(4), 2-(5), 3-(4)

情報教育目標との対応：情報活用の実践力

建築学科教育カリキュラムとの対応：

学習・教育目標	JABEE基準 1 の(1)の知識・能力	コース名	必修／選択の別	授業時間
B	—	建築総合コース	必修	22.5時間
	B 1	建築計画コース		
	d-1, e	建築構造コース		

【概 要】

人間の生活環境は、個別の施設のみで完結することではなく、他の施設及び地域における要素との集合や複合によって構成されており、しかも、個別の施設は既存環境における歴史性や文化性に規定されている面も持つ。ここでは、住居単位とその集合の関係を歴史的及び文化的側面から説明するとともに、現代における住居の集合に対する計画上の現状と問題点について概説する。

なお、この授業は、学士課程共通の学習効果の「知識・理解」の「多文化、異文化に関する知識の理解」と「人間の文化、社会と自然に関する知識の理解」、「汎用的技能」の「論理的思考力」と「問題解決力」、「態度・志向性」の「市民としての社会的責任」、情報処理教育の「情報活用の実践力」、建築学科専門プログラムの「建築を計画する上で検討すべき機能性、安全性、快適性及びデザインに関する知識と理論を理解し、空間創造のための技術及び計画表現のための技術を養成する」とJABEEの規定する知識・能力の「専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力」の「建築学分野の包括的な専門的知識・能力」及び「種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力」の内容が含まれる。

【到達度目標】

- (1) 現在の一般的な集合住宅にみられる形態の特徴とその背景を理解する。
- (2) 住棟配置、住棟と住戸の関係、住戸、それぞれのレベルで、集住体としての計画手法を理解する。
- (3) 今後予想される社会において、集まって住むことの意味と集合住宅に求められる課題を思考する。

【授業計画】

テーマ	内 容
① 集合住宅とは	集まって住むことの意味を考える
② 集合の歴史	既存環境の集合性や日本における集合住宅の歴史に関して解説する
③ 近代集合住宅の歴史	産業化に伴う集住体やモダニズムの集住体に関して解説する
④ 日本における近代集合住宅	戦前の集住体や住様式の近代化に伴う集住体と、その後の型系列の展開に関して解説する
⑤ 生活圏	近隣住区理論を通して生活圏の考え方を解説する
⑥ 配置計画	住棟の配置計画を行う上で考慮すべき環境条件やグルーピングの手法に関して解説する
⑦ 住棟計画	住棟のアクセス形式の違いによる計画上の要点を解説する
⑧ 集合と住戸の計画	コミュニティの形成など、集合体として住戸を計画する上での要点を解説する
⑨ 住戸の計画 i	住戸の断面型の違いに伴う計画上の要点を解説する
⑩ 住戸の計画 ii	住戸内の計画を行う上での要点を解説する
⑪ 集合住宅のデザイン	高層住棟、住戸の連続、住戸開口の制約など集合住宅のもつ特徴とそのデザイン手法に関して解説する
⑫ 集合住宅の課題と可能性 i	高齢化社会から集合住宅の計画を考える
⑬ 集合住宅の課題と可能性 ii	家族形態の多様化と変化に対する集合住宅の計画を考える
⑭ 集合住宅の課題と可能性 iii	居住者参加から集合住宅の計画を考える
⑮ 集合住宅の課題と可能性 iv	地域性から集合住宅の計画を考える
⑯ 定期試験	

【授業方法】

授業計画に関連する情報をビデオやスライドなどによるビジュアルな資料とプリントを提供し、自ら内容を考える環境とする。必要に応じて、授業の前後に関係する事項の問題を課し、動機付けを行う。

【学習到達度の評価】

- 1) 授業中における学生への質問により、大まかな理解度をはかる。
- 2) 適宜レポートを課し、理解度を把握するとともに発展学習を促す。

【評価方法】

- 1) 授業内の問題及びレポートを30点、定期試験を70点として評価する。
- 2) 全授業終了後に学生自身による自己評価を行う。

【関連科目】

- 1年：建築計画Ⅰ、建築計画Ⅱ
- 2年：建築設計製図Ⅱ、建築設計Ⅰ
- 3年：建築設計Ⅱ、地域計画設計

【教科書・教材】

配布プリント

【参 考 書】

建築計画教材研究会 編「建築計画を学ぶ」理工図書
日本建築学会 編「コンパクト建築設計資料集成」丸善

【履修上の注意】

この講義は住宅の計画・設計を行う上での基礎的知識を教授することから、特に2年後期に開講する「建築設計Ⅰ」を受講する上で必要である。

【オフィスアワー】

適宜、昼休み（12:00～1:00）に研究室にて講義内容に関する質問を受付ける。